

## PRESS RELEASE

## 検索連動型広告を活用した新たな自殺予防アプローチの実施 児童虐待やDV被害など、5領域でリーチした利用者70~90%がハイリスク

特定非営利活動法人OVAは、大妻女子大学の小野聡士助教らとの共同研究により、自殺リスク要因となる生活課題を抱える人々に対し、検索連動型広告を通じて適切な支援情報を届ける新たな自殺予防「上流アプローチ: Upstream Approach」を実施しました。

妊産婦、DV被害、うつ病、性的マイノリティ、児童虐待の5領域において、約70~90%の利用者が気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている状態であることが確認され、リスクの高い層へ効果的にリーチできる可能性が示唆されました。

本研究は、2025年2月13日にJapanese Psychological Researchにて発表されました。

### 本研究のポイント

- 01 自殺リスク要因となる生活課題を抱える人々に対し、検索連動型広告を用いて早期に支援情報を提供する新たなアプローチ（Upstream Approach）を実施しました。
- 02 広告は約3か月間で合計1,481,025回表示され、62,884回のクリック（クリック率4.25%）を記録し、利用者は特設ウェブサイトでセルフチェック、セルフケア情報、相談サービスにアクセスしました。
- 03 妊産婦、DV被害、うつ病、性的マイノリティ、児童虐待の5領域では、約70~90%の利用者が気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じていることが確認されました。
- 04 依存症領域では、ギャンブル・アルコール依存の利用者のうち約80~90%に依存症の疑いがありましたが、薬物依存のほとんどの利用者は中等度以下の重症度でした。

## 背景

これまでのICTを活用した自殺予防はインターネット・ゲートキーパー事業など、主に自殺念慮が高まった段階での介入（いわゆる「危機介入」）が中心でした。

しかし、自殺は多様なリスク要因が積み重なることによって生じる複雑な社会問題であり、より早期の段階での介入が求められています。本研究では、自殺リスクの「上流」に位置する生活課題を抱える人々に対して、検索連動型広告を活用し、効果的な支援情報を提供する新たなアプローチ（Upstream Approach）を実施しました。



図1：新たな自殺予防とこれまでの自殺予防（論文をもとに作成）

## 方法

東京都内を対象に、妊産婦、DV被害、うつ病、性的マイノリティ、児童虐待、依存症の6つの生活課題に関連する検索行動を分析しました（対象期間：2022年10月17日～2023年1月31日）。

GoogleおよびYahoo! JAPANの検索連動型広告を活用して各領域に関連するキーワードを設定・広告を配信し、検索行動を行ったインターネットユーザーを専用の特設ウェブサイトへ誘導しました。特設ウェブサイトでは、セルフチェック、セルフケア情報、相談サービスへのアクセスを提供し、利用者の行動データを収集・分析しました。



図2：研究の一連の流れ（論文をもとに作成）

## 主な研究成果

### 01 高いクリック率と支援情報へのアクセス

広告は合計1,481,025回表示され、62,884回のクリックを記録しました（クリック率4.25%）。うつ病（7.79%）、性的マイノリティ（7.39%）、妊産婦（6.75%）の各領域で特に高いクリック率が得られました。約10~30%の利用者がセルフチェックを実施し、約4~10%がセルフケア情報、約3~10%が相談サービスへアクセスしました。

### 02 精神状態の深刻さ

うつ病、DV被害、性的マイノリティ、児童虐待の各領域で、約70~90%の利用者がK6スコア10点以上（気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている）に該当しました（図1）。うつ病領域では約90%がPHQ-9スコアにより「うつ病の疑い」、DV被害領域では約99%がVAWSスコアにより「DVの疑い」、妊産婦領域では約90%がEPDSスコアにより「産前・産後うつの疑い」に該当しました。

### 03 依存症分野での課題

依存症領域では、広告のクリック率が低く（1.78%）、支援情報へのアクセスも他の領域と比較して低い結果となりました。ギャンブル依存の利用者では約90%がSOGS-Jスコアにより「依存症疑い」、アルコール依存では約80%がAUDITスコアにより「依存症疑い」に該当しました。一方で、薬物依存の利用者では約90%がDAST-20スコアにより中等度以下の重症度でした。



図3：各領域におけるハイリスク者の割合（論文をもとに作成）

\*妊産婦はEPDS $\geq$ 9の割合、DV被害はVAWS $\geq$ 9の割合

\*\*うつ病、性的マイノリティ、児童虐待はK6 $\geq$ 10の割合

\*\*\*薬物依存はDAST-20 $\geq$ 11、ギャンブル依存はSOGS-J $\geq$ 2、アルコール依存はAUDIT $\geq$ 15の割合

---

---

## 今後の展望

今後は、より広範な地域や対象者に展開し、経済的側面や長期的な効果を検証することが課題となります。依存症領域においては、より適切なアプローチを模索する必要があります。

また当法人としては、危機介入前の早期支援体制の構築と社会全体の自殺対策推進に向け、本研究の成果を生かし、行政や企業・生活課題を抱える人々の支援を行う他団体との連携強化が必要と考えております。新たな取り組みとして現在、休眠預金を活用した「自殺ハイリスク領域におけるゲートキーパー育成&アウトリーチ支援事業」を開始いたしました。

休眠預金活用事業の詳細については、下記の特設サイトをご覧ください。



[https://fund.readyfor.jp/d\\_deposits/24\\_ova](https://fund.readyfor.jp/d_deposits/24_ova)

### 原論文の情報

#### タイトル

**Upstream approaches for suicide prevention using search-based advertising:  
A pilot study**

#### 著者

**Satoshi Ono, Hajime Sueki, Tai Nakahara, Asumi Takahashi, Akiko Koda,  
Akito Sakai, Maiko Saito, Jiro Ito**

#### 雑誌

**Japanese Psychological Research (2025)**

#### DOI

**<https://doi.org/10.1111/jpr.12582>**

---

### お問い合わせ先

**特定非営利活動法人 OVA**

✉ メールアドレス：[info@ova-npo.org](mailto:info@ova-npo.org)

🌐 ウェブサイト：<https://ova-japan.org/>

---